

F4と私

-心を慰めてくれる友達-

グループH ジョンダジン

1. F4の紹介

私にとって大切なコミュニティは「F4」と呼んでいる高校の友達との集まりだ。F4という名前はFlower 4というあだなを縮約したもので、Flower 4というものはドラマ「花よりだんご」の主人公とその主人公の友達4人のグループのあだなである。私と私の友達が学校に通っていたとき、韓国版の「花よりだんご」がかなりはやっていて、私たちも4人だからという理由でその時から今までF4だと呼んでいる。

中学校のとき、一番親しかった友達と同じ高校に進学を希望したが、友達が私たちが一緒に志願した学校に落ちてしまい、私ひとりではほかの地域の高校に入学することになった。入学した後、ほとんど知り合いがなくて本当にさびしかった。その時、中学校の時から少し知りあったソンと会ってそのときから今まで友人になった。後、ソンの友達だったランとダンビという子たちと同じ写真部にはいって部活をしながら4人でもっと親しくなった。

この子たちが私にとって大事な理由は、たぶん今までの人生で一番大変な時期を一緒に過ごして来たからだと思う。私たちの4人は高校を卒業した後、もう一度大学の受験に挑戦するために1年間浪人することを決めた。ほかの友達はみんな大学の新生になって楽しい時間を過ごしているとき、私たちはもたれ合って一緒に勉強した。その時、もしF4がなかったら本当にさびしかったと思う。今、日本に来てからも相変わらず4人で連絡しながらいろいろ相談したり話したりしている。

2. 取材散歩に行ってみて

取材散歩の時、私はF4の写真を学校に持ってきて、この写真をグループのメンバに見せながら私のコミュニティについて紹介した。この日持ってきた写真は韓国からF4のダンビという友達が日本にいる私に送ってくれたものだった。ダンビからもらった後、私はずっと部屋の壁に写真を貼って置きながら大事にしているものである。

写真は全部で三枚で、高校の1年生のときの写真や高校の卒業式の写真、そして、私が日本にくる三日前に4人で送別会をした時の写真だった。この三枚の写真以外にも、韓国で使っていた携帯を持ってきて、その機器の中にある結構多くの量の写真をみんなに見せた。

みんなに写真でF4のいろいろな思い出を紹介した後感じたことは、こんなに写真が多いのにどこか旅行に行った写真があんまりなかったということだった。よく考えてみると、私たちは4人で旅行に行ったことが一度しかなかった。長い時間を一緒に過ごしたのに、まだあまり遠くまで遊びに行かなかったことがないから、韓国に帰ると4人でどこかへ旅行に行きたいなと思われた。

3. 話し合い相手について

今回の話し合いの相手として、F4のなかでランという友達を選んだ。その理由は、ランはF4のなかで母親みたいな存在の友達だし、見習うことがたくさんある友達であるからだ。さらに、もしF4にランがいなかったら今のような仲のいいF4は存在しないかもしれない。

私たち4人はみんな性格が違って、主張も強いほうだ。例えばご飯を食べに行ったときもみんな食べたいものがばらばらだった。それで、細かいところで意見が合わなくて対立するときが多かった。この対立がもっと激しくなったら、けんかにまでなるときもたまたまあった。このような時、いつもランが中立の立場に立って仲裁してくれた。それでランは私たちにとって母親みたいな存在であった。

ランとの思い出のなかでいちばん記憶に残っているのは、二人でソウルシーテイツアーをしたことだ。そのとき、二人は高校の卒業をむかっている毎日ひまだったから、普通には近いから行かなくてもいいと思ったソウルのいろんな所を見に行った。外国人の観光客だけいっぱい乗っていたそのバスに二人で乗っていろいろ話し合ったことが今にも急に思い出される時がある。

4. 話し合いの結果

最初、私がランに「skype」で電話をかけてこの授業のレポートについて説明したとき、ランは自分を話の相手として選んでくれてありがたいと笑いながら言った。そして、話し合いをする時、少し緊張しているように見える時もあった。

ランにとってF4というのは、久しぶりに会っても昨日会ったように親密感のある友達だと言った。高校の時とか大学に入学する前には毎日あって遊んだりしたけど、今は、みんなほかの分野の勉強をしているし、住んでいる地域を違うため、一ヶ月に一回も会えない時もある。しかし、何ヶ月ぶりであっても全然ごちなくないし、楽しく感じられると答えた。それでランにとってF4は心を慰む存在であると言ってくれた。この話を聞いたなら、私もこのコミュニティの子たちにいつも慰めてもらったのではないかと考えられた。

さらに、ランは私にこの友達のためにいつもいろいろ考えてくれてありがたいと言ってくれた。4人全員が忙しくてあまり会えなかった時、いちいち連絡して約束の時間をあわせてたり場所を決めたりするのが私だったのでそのおかげで今まで私たちが仲良くすることができたと言ってくれたのだ。普通はこのようなことはお互いあまり言わないので恥ずかしかった。

そして、これからランは4人でもっといい思い出を作りたいと言った。普通4人で会うと、食事をしたりコーヒーを飲んだり居酒屋へ行ったりしたけど、これからは旅行とかいろんな活動をしながら新しい思い出を作りたいと言った。なお、年をとっても今のように中のいい友達になって、将来、結婚しても家族と一緒に会える友達になりたいと言った。

5 . F 4 と私

私にとってF 4は、一番楽しかった高校の時と、一番さびしかった浪人の時を一緒にすごしながら苦楽をともにした仲間のような存在である。今はみんな忙しくてよく合えないが、久しぶりに会っても、全然ぎこちなくない。会っておしゃべりをするのだけで心が落ち着く。これがお互いに心を慰めてもらうのであろう。小学校とか中学校の友達、大学の友達もみんな好きで仲のいい大切な存在であるが、このF 4というコミュニティーのように気安く感じられるグループはない。このコミュニティーの友達にはいつもいい言葉だけ話すわけではなく、お互いに批判的な話も助言としてしている。本当に親しい関係ではないとこのような話ができないと思う。

韓国では女同士の友情は薄いという話がある。女性は結婚して家庭ができたら、友達には連絡もしないし、お互い会う必要性もあまり感じてないという人が多いと言われている。F 4の友達とよくこのような話をしながら、私たちは後で年をとって自分の家庭ができてもしっかりしながらしばしば会おうと約束したりしている。

グループの4人のみんな、個性も各々で大学の専攻も違うし、これかれ目指している夢も異なっている。だが、これから時間が経ても、今のように美味しいものを食べたりお酒を飲みながらおしゃべりしたり、いつも安らかに感じられる仲のいい友達になってほしい。

6 . 「コミュニティー」・「コミュニケーション」とは何か

コミュニティーというのは人が人生を生きながら会ういろんな人たちとの結び合いだと思う。家族とか学校の友達、大学、会社、バイトなど普通の人は自分がほしくなくてもいろんなところで様々なコミュニティを作って生活する。このコミュニティーのなかで人は親密感を感じたり、慰めてもらったりしながらお互いに感情の共有ができる。

コミュニケーションというものは人と人がお互いに疎通する全てのものを意味すると思う。けっして直接に話し合う会話だけがコミュニケーションとはいえない。相手と関係を作りあげるそのもの自体がコミュニケーションだといえるのであろう。

7 . クラスについての感想

親しい仲間であるほど、真剣なことを話し合ったり、ありがたさを表現したりすることはあまりできないと思う。私も一番親しくて近い関係だと思われる友達と今までのこととかこの関係はどのような関係であってどのような意味があるのかについて話し合った機会がなかった。それで、レポートをかこつけて友達といろいろ話し合いながら、このコミュニティについて考えてみるきっかけになって本当有益な時間だと思った。さらに、私が所属しているこのコミュニティの大切さも感じる事ができて、このような大事なコミュニティを持っていて所属している自分が本当に幸せな人だと思った。そして、この大切なひとたちとの関係を守っていくためにもって努力する必要があると感じられた。